

令和3年度第2回 城陽市環境審議会議事録

日時	令和4年2月7日（月）午前10時00分～午前11時30分	
場所	城陽市役所 第1会議室	
議題	<p>◆ 会議</p> <p>①地球温暖化対策実行計画の策定手法について</p> <p>②ゼロカーボンシティ宣言の表明について</p> <p>③その他</p>	
出席者	委員	新川会長、中川副会長、中原委員、田浦委員、弘本委員、宮永委員、木下委員
	行政	森田市民環境部長、東村市民環境部次長、浜崎環境課長、山田主任、成田

<質疑等の概要>

◆①地球温暖化対策実行計画の策定手法について

事務局より説明。

会長：ただ今、ご説明いただきました地球温暖化対策実行計画は、これから次年度に向けて本格的に策定準備を進めていかれますが、その手順について、ご説明をいただきました。また、策定すべき計画の内容についても概略の説明をいただきました。これにつきまして各委員からご質問、ご意見がありましたらお願いします。

委員：ゼロカーボンシティ宣言をされたということで、方向性も決まり、非常に良かったと思います。今回策定いただくものは、まさにゼロカーボンを実現するための計画だと思いますので、計画期間が令和5年度から令和9年度までの5年間ということですが、やはり2050年のゼロということ、その中間年である2030年の大きな削減目標もしっかりと入れ込んだ計画にしていく必要があるのではないかと思います。それから、2ページのイメージ図ですが、今ある役割分担でしっかりとやっているとありますが、私が関わらせていただいた京都市の計画策定の時には、環境審議会の下に地球温暖化対策検討委員会がありまして、そこで計画について、委員の方々の意見を聴きながら策定を行ったということ、その下に研究会もつくっておりまして、そこで、もう少し専門的な内容も検討していました。城陽市がどこまでできるのかは、城陽環境パートナーシップ会議（以下、PS会議）がその役割を果たすのか、本審議会とPS会議の一部のメンバーで行うのか、色々なパターンがあるかと思いますが、体制を少し工夫していただくとありがたいかなと思っております。

また、市民アンケートとパブリックコメントを実施されるということで、市民の方々の意見が反映されるということだと思いますが、予備知識がない中で色々な意

見を聴いても、なかなかゼロカーボンが達成できるような意見にならない可能性があります。今、気候市民会議が、市民の方に集まっていただき専門家の知識、現状、それから最新情報などをお伝えしたうえで、では何をしていくかということを議論する場が開催されていまして、一部の市や京都では大学でも行っていたりします。アンケートをする際に、アンケートの説明をどのようにするのかの工夫をしていただければいいのかなと思います。

会長：事務局から何かご説明がございませうか。

事務局：2030年、2050年の中期の目標に関しましては、皆様の意見もお伺いしながら、私どもも是非、策定したいと考えております。少なくとも2050年ゼロカーボンは宣言していますので、この計画の中に含められたらと考えています。また、現行の計画も中長期的を疎かにしているわけではなく、中期目標の割り返しをして目標を定めておりますので、着実な取組を進めていけば、その中期の目標値にたどり着く計画となっています。

次に、2ページのイメージ図記載の環境審議会あるいはPS会議で研究会をつくり、より細かい精査をされてはどうかというお話をいただきました。PS会議は月2回の会議を開いていますので、PS会議だけで話し合ってもらう内容も出てくると思いますが、環境審議会とPS会議での話し合いが必要な際には、調整して話し合いましょうという機会があつてしかるべきだと思っております。その際は進捗具合で調整させていただければと思っております。

アンケートを実施する際に説明の工夫の検討をということですが、周知啓発をどのようにするのかの部分かなと思います。私どももゼロカーボンシティを宣言したという広報などは行っていますが、アンケートを取る際にも、説明文をつける形でぜひ盛り込んでいきたいと思っております。

委員：アンケートの説明だけでなく、パリ協定の意義であるとか、脱炭素に向けた先進事例なども皆さんに知っていただいた方がいいと思っておりますので、工夫をしていただければと思います。

会長：ありがとうございました。特にパブリックコメントやアンケートを取る際に市民の皆様方に、この温暖化対策のご理解をいただいたうえで、ご意見をいただかなければと思います。通り一遍の周知広報ではなかなかそこまでいかないだろうと思っておりますので、市民の皆様方にも学んでいただくような機会も含めた市民参加の在り方もありうるのご意見をいただいたかと思っております。この辺りは今後の課題になろうかと思っております。それから、環境審議会とPS会議がこれから密接に連携しながらより専門的な知見に基づいた議論を深めていく。そのとおりだと思いますが、この辺りは、今後、どのように具体的に詰めていくのか、是非事務局でもご検討いただきたいと思っております。それから、当然、本審議会やPS会議もそうですが、人的な資源は限界もございませうので、新たな知見や必要となるような専門的知識については、

必要に応じて習得ができるような工夫もお願いしておきたいので、よろしくお願ひいたします。その他、いかがでしょうか。

委員： 京都市のことをお伺いしましたが、城陽市だけがP S会議があるのか、あるいは隣接する京田辺市や宇治市なども、P S会議のような団体があるのか、協力関係やお互いの連携などを教えていただきたいです。

事務局： 例えば、城陽市には城陽環境パートナーシップ会議といいまして、市・市民・市民団体・事業者で構成しています。また、他市状況ですが、宇治市であればeco ット宇治さんであるとか京田辺市であれば、きょうたなべ環境市民パートナーシップという市民団体がありまして、市と密接に連携しながら事業を進めておられます。地球温暖化対策実行計画（区域施策編）についても、宇治市や京田辺市も策定していますし、細かく言いますと、区域施策編については中核市以下の市町村については策定義務のない計画ですが、より環境施策に先進的に取り組むために策定して取り組んでいます。市だけが考えたことを机上でやるということではなく、市民皆さんの意見も吸い上げ、環境施策を積み上げながら、施策を進めていくということが近隣市町同じ状況でございます。

会長： その他、いかがでしょうか。

委員： 今回、実行計画を改定されるということですが、カーボンニュートラルの考え方やそれを実現していくような政策体系をまとめていくということになります。皆さん容易に想像がつくように、実質的な総合計画といえますか、単に環境目標を追求するだけの計画ではなく、市の経済社会の在り方そのものを描き出したり、市の全体的なまちのビジョンを描く計画になっていくと思います。ただ一方で、市としては1 ページの解説のように、環境基本計画があり、その中に地球温暖化対策についての実行計画という階層があり、制限がある。この中身について考えたときに、これを飛び越えて、実質的な総合計画である必要がある。この計画の実行性を考えた時に、どこまで経済社会にまで言及できるのかが大きいと思います。私のベストとしましては、総合計画は覆すことはできませんが、今後、総合計画を変えていけるような大きな影響力がある計画を策定してほしいと思います。

2点目は、作り方が非常に大切だと思います。今回P D C AサイクルではPの部分、まさに始まっていくところの部分ですが、Pは独立したものではなく、サイクルとなっていますので、後のD C Aを見据えて、逆算して策定して欲しいと思います。策定だけではなく、今後の体制づくり等を見据えての計画策定が必要ではないのかと思いました。

事務局： 委員の意見の中で一貫して言えることは「実行性」かなと思っています。庁内の雰囲気もそうですし、総合計画やP D C Aサイクルもそうですが、今回の計画につきましては、実際に何をどうしたらどれだけ温室効果ガス排出量が削減できるのか。大きな目標に向けての細やかな取組を皆さんと一緒に作っていき、私共、そして環

境審議会だけでなく、庁内に波及させる仕掛けも必要かと思っています。実際にはこの2ページイメージ図にあります庁内の部長級が集まる環境政策推進本部会議、次長級が集まる環境政策推進委員会でお話をしながら、城陽市は環境施策についてもこのような形で向かっていくということを見せつける計画を策定しなければならないという使命感を持っています。計画の実行性につきましては、策定を進めていくにあたり常に念頭に置いたうえで、皆様とお話しできればと思います。施策の積み上げ方、施策の回し方、実行性はどこにあるのか、どうすればこの計画を導き出せるのか、策定した計画の数値だけの話にならないような事務進行にしたいと思っています。皆様の知見もお貸しいただければと思っています。

会長：ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

副会長：計画策定時に誰が関係するのかと思った際に、市の推進本部会議であったりPS会議が出てきますが、市の各部署がみんなで取り組まないとダメだと思います。また、環境に関する各専門の委員もいると思います。そういう人たちがみんなでこんな計画を策定するんだというところが、あまり見えない。この審議会でも報告を受けるだけで、みんなが意見を言っても実現できるかどうかわからない。将来的には、みんながもう少しすみ分けができ、城陽市がたたき台を作るにしても、計画の中身はみんなで揉んで作り上げていく仕組みも将来的にはいるのかなという気がしました。そうすることによって、市民、城陽市の各部署、事業者は自ら策定した計画という意識が持てるし、関わり合いの中で計画を策定できるのではないのかと感じました。

事務局：もっと実行性を持った、あるいは協議体として意見をくみ上げる何かがあるのかなと思ってお話を聞かせていただきました。前回の地球温暖化対策実行計画の策定時には、第2次環境基本計画の策定とセットで審議会にもお話をさせていただきました。会議体を審議会だけでなく、PS会議の計画策定ワークグループなどを立ち上げまして、策定に向けて同時進行でさせていただきました。今回の地球温暖化対策実行計画の策定には、環境審議会を3回開催して意見をいただくという形がセオリーではございますが、今回は3回の開催だけでは足りないかもしれないという思いも持っております。また、次回の環境審議会の前に、メール等で各委員さんに色々ご相談をさせていただくこともあるかと思っていますので、よろしく願いいたします。

副会長：私はすぐにとということではなく、今回はこれでいいのですが、今後そういうやり方も検討が必要かなというお話です。

会長：ありがとうございました。今後、進めていかれる時の検討課題ということでよろしく願います。その他、いかがでしょうか。

委員：アンケート実施前に市民の方に一度こういう取り組みをしますということを広報しようようで年に何回か掲載していると思います。そこはどのように考えてお

られますか。

事務局： 2月15日号の広報じょうよう1面に「目指せ！ゼロカーボンシティ」という記事を掲載して、市民の方への周知啓発を考えております。その中では家庭で取り組んでいただく内容や市が取り組んでいる内容を網羅して皆様にもお伝えするつもりでいます。紙面ができ上がりましたら、環境審議会の皆様にもお見せできればと思っております。それ以外にも、来年度は広報誌に隔月でコラムの掲載も計画しています。市内には高齢者の方が多いことから、一番認知度が高い媒体が広報誌になりますので、ゼロカーボンシティの周知啓発を図るよい機会だと思っております。

会長： ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

委員： アンケートを実施する前に説明会や勉強会などを開催してはというご指摘がありました。私もそのとおりで思っております。城陽市の前回計画のアンケートを拝見しますと、市民の方、事業者の方、それから中学生とものすごく丁寧にアンケートを取られていることが、とても特徴的だと思います。それだけにアンケートというツールをうまく活用できれば、実行力あるものにするための非常に大きな武器になると思います。是非、PS会議の方々の力を借りながら、実践的で新しいタイプの学習とアンケートをセットにしたものと考えていくと、これまで積み上げてきたものを、さらによりよく活かしていくことになるのではないかと思います。特に事業者の方々のマネジメントシステムへの知識や理解などがまだまだ進んでいないという結果も前回出ていましたので、そういうところに力を入れていく、チャンスをうまく活用していく。また、SDGsやゼロカーボンを実践していくには、これから若い世代がどう動いていくのかはすごく重要なことだと思います。そこに対する教育活動についても、この機会をうまく活用することを作戦として考えていかねばと思います。他の政策分野との連携については、推進本部会議や推進委員会ですっきりとやっつけていかれるとは思いますが、実際に施策を作っている世代、課長や係長などが、自分たちの施策にうまくゼロカーボンの流れを注いでいけるようなムーブメントがあればいいと思います。政策の転換期といいますか、指摘のあったように、新しい技術の開発などもこの10年間ぐらいで一気に進んでいくと思います。その勉強もとても大事になっていくので、色々な事例を学びに行くとか、話を聞くなどかなり積極的にやっつけていかないと2050年2030年をターゲットに描いていくことが難しくなるのかなと思いますので、是非、力を注いでいただければと思います。

会長： アンケートにつきましては、皆様方から色々ご意見をいただいたとおりで思っています。せっかくの貴重なアンケートですので、丁寧にやってこられたものを、もっともっと活用できればと思います。今回は部長級・次長級の会議が予定されていますが、もう少し具体的な施策を課長・係長の方々と連携を図られてはと

のご指摘もありました。技術革新のところは、どんどん新しいものが生まれてきていますので、技術の変化に私たちがついていけないところもありますが、それも踏まえた計画にしていけないと策定した途端に時代遅れになってしまうこともあるかもしれません。この辺りで事務局がお考えのことがあればお願いします。

事務局：　まずはアンケートのお話ですが、前回計画策定時のアンケート、それから前々回の計画策定時のアンケートにおいて、その時々を把握するために設定している設問があり、経年変化を抑えている設問があります。それに加えて、新しいものに対する考え方はどうなの？という設問を入れていけるようなアンケートにできればと思います。前回のアンケート結果で申しますと、市内事業者300社を対象に事業者アンケートを実施しましたが、回収率が37.6%、環境マネジメントシステムの導入状況ですが、「導入する予定はない」、「どのようなものかよくわからない」という回答が主体ではありました。ただ、国や府がゼロカーボンに対する様々な施策を打ち出していますので、今回、アンケートを取らせていただく中では少しは良くなってほしいというのが本音です。環境マネジメントシステムについては、広報じょうようも含めて周知啓発は続けさせていただきたいと思ったり、市内事業者さんがISO9001、ISO14001を認証取得される際の助成金もありますので、その助成金の周知啓発をしっかりとやっていきたいと思ったり。

課長や係長などの下からのムーブメントを起こせないかというご意見もございました。城陽市地球温暖化対策実行計画の事務事業編ではJ-EMSと連動させており、J-EMSは各所属が中心となって取り組んでいます。毎年、PDCAサイクルが回っているかのチェックもごさいます。そういったものも活用しながら、自分たちの活動がどれだけ地球温暖化に対して影響があるのか、地球温暖化防止に向けての施策がどれだけ打ち出せているのかを、区域施策編の段階まで昇華させたようなやり方にできればと思っています。しかしながら、現状は事務事業編で各部署の係員が認識を持ってもらうというレベルですので、もう少し工夫ができればと思っています。

会長：　ありがとうございました。その他、いかがでしょうか。

事務局：　今回の計画策定につきましては、ご意見をいただいておりますとおおり、発信力を持った計画にしなければならないと思っています。そこは今後、議論していかなければと思っています。そうすることで、市・市民・市民団体・事業者すべての人が温暖化に対する意識を高めていただいて、みんなが行動に移さなければならないところまでつながっていければと思っています。

会長：　是非、その方向で進めていただければと思います。その他、特になければ、地球温暖化対策実行計画の今後の策定手法につきまして、ご意見をしっかり踏まえて進めていただくということにしたいと思ったり、各委員それでよろしゅうご

ございますか。

それでは、本日の議題の2つ目であります「ゼロカーボンシティ宣言の表明について」ですが、前回も少し議論をしていただきましたが、いよいよ宣言が出ましたので、これにつきましても、事務局からご説明をよろしくお願いいたします。

◆②ゼロカーボンシティ宣言の表明について

事務局より説明。

会長：ただ今、城陽市ゼロカーボンシティ宣言のこれまでの経過、この宣言に基づきまずゼロカーボンに向けてのさまざまな施策の展開につきまして、ご説明をいただきました。委員の皆様からご質問や、ゼロカーボンシティ宣言に向けてのご助言・ご提案などもございましたらいただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員：宣言されたからには、様々な施策を展開していかれると思いますが、その施策の中でも城陽市はこんな施策に力を入れていますという、いわゆるリーディングプロジェクトを作っていく必要があると思います。

会長：事務局でも工夫やできることがあればやっていただければと思います。今日も城陽市のホームページを見せていただいています。城陽市のゼロカーボンシティに向けての一丁目一番地はこの施策ですと言えるものが明確に打ち出せると、アピール力になる感じがします。是非、事務局に検討していただきたいのと、私たちもそれに向けて色々とアイデアを考えていければと考えております。その他、いかがでしょうか。

委員：ゼロカーボンシティが本当に実現できるのかは、市民の方々の中にはまだまだ難しいと思っておられる方もいらっしゃるかもしれません。今はまだ、温暖化対策というと我慢したり、不便になったりするというイメージが一般的なのかなと思いますが、実はそうではなく、対策を進めることでゼロカーボンシティが実現できた方がより良い地域や社会、生活になることを描いて伝えていくことが重要になっていくのではないかと思います。その意味で実行性が重要です。ただ、その実行性は表裏一体で、ここまでしかできないから、実行性を担保するためにここまでしかしないと決めるのであれば、ゼロカーボン達成できないので、そうではなく、高い目標をどうやったら実行できるのかという仕組みづくりが重要かと思えます。そこが織り込めるような計画にしていく必要があるのかなと思います。

もう1点は、若い人が2050年はどうなるのかとすごく関心を持たれています。是非、若い人を巻き込み、意見を反映させるため、SNS等の活用なども考えていただけたらと思います。

事務局：SNSは今後、活用できればと思っています。また、PS会議も同じようなこと

を考えておられ、昨年度にビデオカメラを購入され、そのビデオカメラで撮影した「私のカーボンニュートラル」宣言をP S会議のホームページで公開して、発信力を高めようと思っておられます。

また、若い人を巻き込むということでは、ゼロカーボンシティ宣言の新しい施策の1つであるカーボンニュートラル絵画展では、若い人を巻き込むために開始した事業です。城陽高校生にカーボンニュートラルとはどんな世界かをテーマにポスターを作製していただき、高校生が作製したポスターを見て、小中学生にゼロカーボンシティを目指すにあたり、どんなものが必要なのか、どういう風な未来を想像するのかを描いてもらう事業を考えております。打合せも何度か行い、城陽高校生の意見を聴く場も設けさせていただいていました。中には、悲観的な見方をされている部分もあり、今、何もしなければこういう未来が待っているよという暗い絵を描いてもいいのかという質問もありました。それに対して、あまり私共が言いすぎると誘導したことになるので、そういう意見があるのもわかるし、そういう絵を描きたいという気持ちもわかるが、小中学生がそのポスターを見た際に、どういう絵にすれば興味を持ってもらえるのか、未来に希望を持ってもらえるかななどを考えながら、できれば未来あるもの、活力ある絵にしてほしい。もし、そんな絵を描くのであれば、いい未来と悪い未来を対比するような構図にする工夫ができないものだろうかと伝えたと同時に、高校生はそんな意識を持っているんだと強く印象に残ったことを覚えています。子供たちの危機感は私たち大人よりはるかに強いと思います。その意見もあり、私らはしっかりと計画を作らなければいけないという思いを持ったことから、できれば若い人たちの率直な意見や未来に希望を持てるような意見なども何とか積み上げていければと思っております。

会長 : ありがとうございます。若い人たちは本当に怒っています。未来に対する希望を、託しておられる方々もたくさんいらっしゃると思います。そうした人たちへの働きかけもゼロカーボンシティ宣言の次のステップになろうかと思えます。ポスター、絵画展をぜひ前向きに進めていただければと思えますし、場合によっては暗い未来でも、小中学生から逆に違うという意見もでるかもしれません。委員から一番初めにご指摘のあった話にも関連しますが、こうした温暖化対策、ゼロカーボンというのが、本当に我慢に我慢を重ねて排出抑制をしていくというイメージで日本社会は捉えられがちですが、世界的にみるとそうではなく、むしろ環境配慮こそが次の経済成長や豊かな社会生活に結びついていく、グリーンリカバリーという言い方もありますが、そういう発想に世界中が迎えつつあり、明らかに価値観や基準が大きく変わりつつある。ただ、日本でいろいろな調査をすると我慢、我慢で見られる印象が多い。そこを変えていくことも、行政の役割かもしれないなと思いました。温暖化対策が豊かな未来に結びついていく。そんな観点もしっかりと踏まえて、計画を策定していただければと思えます。その他、いかがでしょうか。

副会長： 城陽市のホームページに現在の城陽市温室効果ガス削減効果状況を示しておられますよね。これを見て詳細をわかる人はいるのでしょうか。

事務局： ホームページに掲載しているのは数値だけですが、環境報告書の中にはグラフを掲載しています。ただ、そこへのリンクは貼ってはいない状況です。

副会長： これを見て、わかる人は少ないと思います。2013年を100として2018年に25.3%削減され、2050年にはゼロになる、100%削減されるということですか。

事務局： これはあくまで2013年度比で何パーセント削減できているのかを示している数値です。この見せ方をどうしようかと悩んだのですが、ゼロカーボンシティでのカーボンニュートラルはあくまで排出量と吸収量を均衡させる、つまり、実質ゼロにするという意味です。今後、吸収量の算定ができれば見せ方を検討すべきだと思っています。

副会長： 城陽市の現在の状況がわかるようなもの、市民が理解できるものを、リンクを貼るなど工夫して掲載していただければと思います。

会長： なかなかトップページに事細かに描くのは難しいと思いますので、疑問に思われた時にわかりやすいページに飛べるような工夫をしていただければと思います。なお、まだ先の話になるかもしれませんが、いずれは20年度に対する削減ではなく、ゼロカーボンニュートラルがわかる指標、つまりプラスマイナスゼロに近づいた感がわかる指標を考えていかなければならないと思います。ご検討よろしくおねがいします。その他、いかがでしょうか。

委員： 今はゼロカーボンシティを宣言しましたというタイミングのため、ホームページのトピックスとして打ち出されている形になっていると思います。時間がたてば、下に下がってくると思いますので、どういうものがカーボンニュートラルであり、ゼロカーボンシティを常にどうやって情報発信していくのかを、情報戦略として考えていかなければならないと思いますので、それも含めて今後の地球温暖化対策実行計画を策定する中でも注視していく必要があるのかなと思います。

会長： ありがとうございます。先ほどのお話にもありましたように、リーディングプロジェクトも含めて、目玉商品を次々と打ち出し、ホームページのトップを飾れるような、そんな工夫も必要かもしれません。事務局でも考えてみていただければと思いますので、よろしく願いいたします。その他、いかがでしょうか。

委員： 本日会議に参加させていただいて思ったのは、市民がどのように参加していけるのかですが、市のイメージキャラクターのじょうりんちゃんをもっと活躍させ、団体等の活動をじょうりんちゃんが表彰するなり褒めることで、これだけできましたとアピールしてはどうでしょうか。「宣言しました」と言っても、新型コロナウイルス感染症拡大のために、明日生きていくのも大変な方もおられることから、それだけの余裕を持つことができない。そういう人たちにも、アピールすることで、「頑張

っている人がいるんだ」という形になって見えるようなもの、みんなで取り上げていけるようなものを考えていただければと思います。

会長：ありがとうございます。大事な提案をいただきました。一生懸命にやっても、それを認めていただいたり、褒めていただいたりしなければ続かないということもあります。こんな時代ですから、色々な努力をすることが大変ということもあります。ほんの少しのことでもみんなが注目してくれ、よかったねと言ってくれる。それを城陽市のマスコットキャラクターが褒めてくれるとなると、これはまた違った達成感があるかもしれません。事務局からその辺り、マスコットキャラクターの使い方等で何かお話しいただけることがあればお願いします。

事務局：イメージ戦略、具体策で何か出せるものがあるかと思います。じょうりんちゃん、PS会議のイメージキャラクター、市の環境施策のキャラクターウメっちというキャラクターがありますが、皆さんご存じない。周知不足かなと思ったりするのですが、こういったキャラクターの活用であったり、それ以外のイメージ戦略を今後、積み上げていければと思います。

会長：ありがとうございます。じょうりんちゃんなどのキャラクターに活躍をしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。その他、何かございませうでしょうか。ゼロカーボンシティ宣言につきましても、これを市民の皆様方にずっと継続的に指揮をしていただく。また、ゼロカーボンシティを積極的に進めていくような施策の展開、こういったことへの期待も各委員からいただきました。一方では、ゼロカーボンシティをしっかりと活動していただいている方に対して、みんなで一緒に褒め合いながら進めていくような仕組み作りも大切かなというご意見もいただきました。そうした動きがあるとカーボンニュートラル宣言というのが常に市のホームページでも上位に、そして皆さんが見てくださる回数も上位に、ということになるのかもしれない。是非、そのような状態を作れるよう、私たちも考えていければと思います。それでは、その他特になければ、このゼロカーボンシティ宣言につきましては以上にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは本日予定しておりました会議につきましては、事務局から何かございますでしょうか。

事務局：特にございませんが、次回の審議会はおそらく6月ごろに開催となりますので、よろしく申し上げます。

会長：それでは本日予定しておりました会議の内容でございますが、その他各委員から追加して何かあればと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、本日の会議につきましては、以上で終了とさせていただきます。熱心にご議論していただき、ありがとうございます。それから良いアイデアもいただいたかと思います。是非、事務局への宿題がたくさんありますが、しっかりと咀嚼をして今後の計画づくり、また、ゼロカーボンシティの実現に向けて工夫をしていただければと思います。本

日も熱心にご議論をしていただき、ありがとうございました。

以上